

児童デイゆめときわ2 児童発達支援事業所自己評価結果（公表）

公表日：令和4年 月 日

|          |    | チェック項目   | はい | いいえ | 改善目標、工夫している点など   |
|----------|----|--|----|-----|--|
| 環境・体制整備  | 1  | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか   | 7  |     | 決して広いとは言えないが、個室や家具のレイアウトなど工夫しながら安全面に配慮している。                                      |
|          | 2  | 職員の配置数は適切であるか  | 7  |     | 人員配置基準を満たしたうえで、適切に配置している。  |
|          | 3  | 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている   | 5  | 2   | 未就学児童には、事業所までの外階段は負担になっているかもしれない。室内では、視覚指示や掲示などを行って配慮に努めている。                     |
|          | 4  | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている   | 7  |     | フロア内の清掃や消毒は毎日行い、清潔な空間を保てるように努めている。   |
| 業務改善     | 5  | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している  | 5  | 2   | 個人差はあるが、互いに声を掛け合いながら意識を高めあうようにしている。  |
|          | 6  | 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている  | 7  |     | 例年、保護者に対して事業所評価を実施し、業務改善と日々の支援に活かしている。   |
|          | 7  | 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している                                   | 7  |     | 事業所内に掲示、および、ホームページへの掲載を毎年行っている。  |
|          | 8  | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている   |    | 7   | 外部評価は現在行っていない。   |
| 適切な支援の提供 | 9  | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している  | 7  |     | 定期的に社内勉強会を実施している。  |
|          | 10 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している   | 7  |     | 児発管が主となって、アセスメントを基に事業所内で会議を行いながら計画を作成している。                                       |
|          | 11 | 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している   | 7  |     | 事業所内でツールを用いての検査は実施していないが、保護者や相談支援事業所を介して、発達センターなどで受けた発達検査の結果を提供してもらい、支援に反映させている。 |
|          | 12 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている | 5  | 2   | 家族支援と地域支援に関しては、今のところ計画の中には具体的に盛り込まれてはいない。今後、必要に応じて計画の中に設定していきたい。                 |
|          | 13 | 児童発達支援計画に沿った支援が行われている  | 5  | 2   | 個別の計画に沿って、事業所一丸となって支援を行っている。   |
|          | 14 | 活動プログラムの立案をチームで行っている   | 5  | 2   | 職員会議を行い、アイデアや意見を出し合って検討している。   |

|              |    |  |   |   |   |
|--------------|----|--|---|---|---|
|              | 15 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している   | 7 |   | 固定化しないよう注意し、子ども達の成長に合わせて楽しく活動できるようにも工夫を凝らしている。                              |
|              | 16 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を 適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している                                | 7 |   | 子ども一人一人の障がい特性や課題などを踏まえ、状況に応じて活動を切り替えながら対応している。                              |
|              | 17 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している                               | 5 | 2 | 打ち合わせは行うようになっているが、十分ではない時もあるので、これまでよりもしっかりと行いたい。                            |
|              | 18 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している                          | 5 | 2 | できるだけ当日のうちに振り返りを行い、できなかった場合には翌日の朝礼で共有するよう努めている。                             |
|              | 19 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている   | 5 | 2 | 毎日、連絡帳にて記録を残している。   |
| 関係機関や保護者との連携 | 20 | 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している  | 7 |   | 児発管が主になって行っている。   |
|              | 21 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している                            | 7 |   | 主に児発管が参加。必要に応じて現場で支援にあたる職員にも参加してもらっている。                                     |
|              | 22 | 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている  | 2 | 5 | 必要に応じて連携や情報共有などを行っている。  |
|              | 23 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている |   |   | 今年度該当なし   |
|              | 24 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている             |   |   | 今年度該当なし   |
|              | 25 | 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている                | 4 | 3 | 必要に応じて、園での子ども達の様子を見学させて頂いたり、先生方から話を伺うようになっている。                              |
|              | 26 | 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている                            | 0 | 7 | 次年度、小学校に入学する児童がいるが、今のところ担当者会議等の予定は無い。コロナ禍でもあるため、状況を見極めながら可能な限り情報共有を行っていきたい。 |
|              | 27 | 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている                     | 3 | 4 | 保護者を介して発達センター受診時に受けた助言を伺ったり、必要に応じて相談支援事業所と連絡を取りながら連携している。                   |
|              | 28 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある                                      | 0 | 7 | コロナ禍ということもあり、交流はできていない。   |
|              | 29 | (自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している                                     | 1 | 7 | 協議会主催のリモート研修などの案内はあるが、積極的な参加はできていない。  |
| 保護者への説       | 30 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている                               | 5 | 2 | 送迎時や連絡帳を介して、共通理解を深める努力をしている。  |
|              | 31 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている                   | 5 | 2 | プログラムとして行っていないが、送迎時や電話を介して保護者から相談があった場合には、適切な助言を行うよう努めている。                  |

|                                 |    |  |   |   |   |
|---------------------------------|----|--|---|---|---|
| 明<br>責<br>任<br>等                | 32 | 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている   | 7 |   | 契約時に児発管から説明を行っている。  |
|                                 | 33 | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている | 7 |   | 契約内容を保護者に確認してもらったうえで同意の署名を頂き、計画書の写しを渡している。                            |
|                                 | 34 | 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている  | 6 | 1 | 少しでも悩みなどが解消できるよう、保護者の気持ちに寄り添った対応を心がけるようにしている。                         |
|                                 | 35 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している   | 7 |   | 今年度も引き続きコロナ禍であったが、規模を縮小するなど感染対策を講じたうえで保護者会を行った。                       |
|                                 | 36 | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している                           | 6 | 1 | 電話・連絡帳・送迎時・個別面談など、様々な形で相談などを受け付けられるような体制を整え、速やかに対応できるようにしている。         |
|                                 | 37 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している   | 7 |   | 毎月、会報(ゆめ通信)や月間予定表を配布している。掲載内容も、できるだけわかりやすいものになるよう努めている。               |
|                                 | 38 | 個人情報の取扱いに十分注意している  | 7 |   | 個人情報に記載されたファイル類は鍵付きキャビネットにて保管している。また、職員が業務上知り得た情報は部外者には口外しないよう徹底している。 |
|                                 | 39 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている  | 7 |   | できるだけ短く分かりやすいように伝えたり、視覚的な情報も活用しながら配慮している。                             |
| 非<br>常<br>時<br>等<br>の<br>対<br>応 | 40 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている   |   | 7 | 町内会に加入しているが、事業所運営には活かされてはいない。   |
|                                 | 41 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している                                  | 7 |   | 各マニュアルを準備し、定期的に訓練を実施している。   |
|                                 | 42 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている   | 7 |   | 行っている。  |
|                                 | 43 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している  | 7 |   | 契約時に服薬等の有無を確認している。利用途中で服薬の追加や変更などがあった場合にも、知らせてもらうよう保護者をお願いしている。       |
|                                 | 44 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている   | 7 |   | 医師からの指示書は無いが、契約時にアレルギーの有無を保護者に確認し、対応に気を付けている。                         |
|                                 | 45 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している  | 4 | 3 | ヒヤリハットに該当する事例はほぼ毎日のようにある。口頭での共有はしているが、報告書としての共有はまだ不十分であるため改善が必要。      |
|                                 | 46 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている   | 7 |   | 事業所内で研修を行い、虐待防止に対する理解を深めている。  |
|                                 | 47 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している                           | 7 |   | 現在のところ、該当児童はいない。<br>今後やむを得ない拘束が必要になった場合でも、速やかに対応できるよう体制は整えている。        |